

# 徳島県周産期 災害対策マニュアル



徳島県・徳島県周産期医療協議会

(令和3年3月改訂)

はじめに

徳島県では、南海トラフの巨大地震や中央構造線活断層帯を震源とする直下型地震による甚大な被害が想定される中、各関係機関において災害医療体制の整備が進められています。

こうした中、周産期医療においても、医療・保健・行政が連動できる災害時の体制構築が必要とされていることから、まずは災害時の行動指針の基本形を作成し、それを周産期医療の関係者で共有することから始めたいと考え、本マニュアルを作成しました。

日頃からの備えや訓練等、災害対策への取組に本マニュアルをご活用くださいますようお願い申し上げます。

## 目 次

### 1. フェーズごとの行動指針

- フェーズごとの行動指針・骨格一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 災害時の周産期医療体制図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (1) 災害時小児周産期リエゾン(災害医療コーディネーター)・・・・・・・・ 5
- (2) 徳島県周産期災害対策ネットワーク本部(徳島大学病院)・・・・・・ 6
- (3) 産科を有する災害拠点病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 産科診療所(分娩取扱有り)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (5) 産科診療所(分娩取扱無し・妊婦健診実施)・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (6) 助産師
  - ① 全般・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
  - ② うち開業助産師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (7) 保健師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (8) 妊産婦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

### 2. 関係機関電話番号簿

- (1) 産科を有する災害拠点病院・災害医療支援病院・・・・・・・・・・・・ 19
- (2) 関係団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (3) 県関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

### 3. 妊産婦・乳児に配慮した避難所運営指針・・・・・・・・・・・・・・ 21

### 4. 徳島県周産期「共通診療ノート」より

- 「防災ノート：赤ちゃん和妈妈を守るために」・・・・・・・・・・・・・・ 22

(参考) アクションカード

# ○徳島県周産期災害対策マニュアル(フェーズごとの行動指針)・骨格

フェーズ	フェーズ0	フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ	フェーズⅣ
	平時からの対応	発災期対応	超急性期対応	急性期対応	亜急性期以降対応
	発災前	発災直後	発災～48時間	48時間～1週間	1週間～1か月程度
災害時小児周産期リエゾン (災害医療コーディネーター(専門分野:小児周産期))  ※アクションカード参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>○四国四県の産科基幹病院の産婦人科医の連絡体制の確立</li> <li>○四国四県の新生児科医の連絡体制の確立</li> <li>○新生児医療連絡会の全国災害連絡網の確認</li> <li>○県災害対策本部との連携強化</li> <li>○災害対策講習会への参加</li> <li>○通信手段の確保(LINE、衛星電話等)</li> <li>○大規模災害対策情報システム入力訓練の統括</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県庁に災害対策部会が設置され、小児周産期リエゾン参集の要請があった場合 ⇒ 県庁に参集できる小児周産期リエゾンの決定 (原則として産婦人科医師1名、小児科医師1名とする)</li> <li>○県庁へ移動してDMATと対面、現状確認</li> <li>○通信手段の確認(LINE、衛星電話等)</li> <li>○県内基幹施設・診療所との連絡体制の確保</li> <li>○四国新生児医療研究会世話人間の連絡体制の確保</li> <li>○新生児医療連絡会の全国災害連絡網との連絡体制の確保</li> <li>○基幹施設・産科診療所の被災状況の確認</li> <li>○他府県を含めて移送が必要な患者の把握</li> <li>○指揮系統・担当者の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○DMAT・救急隊との連携による患者移送の調整</li> <li>○DMATによるドクターヘリ・救急車配備の調整</li> <li>○県内基幹施設の医療スタッフの充足状況の確認</li> <li>○基幹施設・産科診療所・避難所の必要物資の確認</li> <li>○支援物資運搬の助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○DMAT・県災害対策本部との調整</li> <li>○基幹施設・産科診療所・避難所の状況確認</li> <li>○他府県からの応援医師の配置についての助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○DMAT撤退後の災害対策本部との調整の継続</li> </ul>
周産期災害対策ネットワーク本部  【徳島大学病院】  ※アクションカード参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>○周産期災害対策ネットワーク本部を大学病院内に置き、妊婦・褥婦・新生児の情報を一括して扱うことの周知徹底</li> <li>○県内基幹施設の緊急時連絡網の構築</li> <li>○県内基幹施設間の緊急連絡のシミュレーションの実施</li> <li>○発災時の周産期災害対策ネットワーク本部立ち上げの学内シミュレーションの実施</li> <li>○ネットワーク本部立ち上げに必要な物品の確保 (パソコン、ホワイトボード、ライティングシート、マーカー等)</li> <li>○通信手段の確保(LINE、衛星電話等)</li> <li>○大規模災害対策情報システム入力訓練への参加</li> <li>○周産期災害時情報共有ホームページを活用した妊産婦等へ災害時の備え等についての情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学病院の被害状況確認</li> <li>○大学病院周産母子センターの診療に必要な人員の確保</li> <li>○周産期災害対策ネットワーク本部の立ち上げ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク本部運営に必要な人員の確保</li> <li>・ネットワーク本部立ち上げに必要な物品の確認</li> <li>・徳島大学病院内DMAT本部と近い場所に設置</li> </ul> </li> <li>○小児周産期リエゾンとの情報共有</li> <li>○通信手段の確認(LINE、衛星電話等)</li> <li>○時系列の情報収集と記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小児周産期リエゾンとの情報共有の徹底</li> <li>○県内災害拠点病院・産科診療所の被災状況の把握</li> <li>○大規模災害対策情報システムの活用</li> <li>○EMIS、県災害時情報共有システムの活用</li> <li>○必要物資の把握およびリスト化、支援要請</li> <li>○支援物資の配布先の選定</li> <li>○妊婦への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受診が必要な症状について</li> <li>・分娩取り扱い、外来診療の可否について</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○妊産婦への各診療所の被災状況の情報発信</li> <li>○診療所の被災状況に応じた妊産婦の振り分けの手配</li> <li>○他府県からの応援受け入れ対応</li> <li>○状況に応じてネットワーク本部を産婦人科医局へ移動</li> </ul>	
災害拠点病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体制・システム <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内・施設間・リエゾンとの連絡網作成</li> <li>・防災訓練の実施</li> <li>・情報共有・新生児・母体搬送などのマニュアル作成</li> <li>・周産期のトリアージの訓練</li> <li>・病棟のアクションカード整備</li> <li>・分娩予定妊婦の連絡先名簿作成</li> <li>・通信手段の確保(LINE、衛星電話等)</li> <li>・大規模災害対策情報システム入力訓練への参加</li> <li>・妊婦健診結果の共通診療ノートへの記載</li> </ul> </li> <li>○施設・物品(診療所(分娩無)は除く) <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩セット・帝王切開セットの予備の確保(10セット以上)</li> <li>・分娩時に使用できる水の確保</li> <li>・備蓄(3日分):非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)</li> <li>・紙オムツ</li> <li>・医薬品の整理</li> </ul> </li> <li>○妊産婦への啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健診、母親学級・パパママ学級、産後入院中に防災教育を行う</li> </ul> </li> </ul> <p>※詳細は「助産師フェーズ0」を参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身、家族、職員の安全確保</li> <li>・入院している妊婦、褥婦、新生児の安全確保と避難誘導・搬送(必要であれば)</li> <li>・被災状況の把握(建物の倒壊、火災、津波などによる災害に備える)</li> </ul> </li> <li>○情報共有 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信手段の確認(LINE、衛星電話等)</li> <li>・施設内の災害対策本部、近隣の施設間、災害対策ネットワーク本部との情報交換</li> </ul> </li> <li>○物品 <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用できる分娩セット・帝王切開セットの確認</li> <li>・分娩時に使用できる水・ライフラインの確認</li> <li>・非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)・紙オムツの確認</li> <li>・医薬品の確認</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○妊婦、褥婦、新生児への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難誘導・搬送(必要であれば)</li> <li>・外来診療</li> </ul> </li> <li>・大規模災害対策情報システムへの入力</li> <li>・EMIS、県災害時情報共有システムの活用</li> <li>・妊婦への情報発信</li> <li>・DMATが到着すれば周産期関連の情報伝達</li> <li>・非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)・紙オムツなど 必要物資の要求</li> <li>・必要な医薬品の要求</li> <li>○受け入れ体制の整備・受け入れ <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦のトリアージブース設置</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・搬送(必要であれば)</li> <li>・外来診療</li> <li>・早期退院患者の相談対応</li> <li>・被災により帰宅できない妊産婦への退院調整</li> <li>・妊婦健診・1か月健診等の受診予約の把握・情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巡回支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦・褥婦・新生児の巡回医療</li> </ul> </li> </ul>
診療所(分娩有)	<p>【参考】 日本産婦人科学会「大規模災害対策情報システム」への災害時情報入力項目 ※情報入力・閲覧には、ID、パスワードが必要</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所が機能すれば、できる範囲内で正常分娩・管理を行う</li> <li>・診療所が機能しなければ、入院患者の搬送、妊婦への情報提供を行う (可能であればオープンシステムも検討する)</li> </ul>		
診療所(分娩無)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■緊急情報(災害発生後48時間以内に入力) <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩取り扱いの可否</li> <li>・帝王切開施行の可否</li> <li>・外来診療の可否</li> <li>・母体搬送・新生児搬送の受け入れの可否</li> <li>・施設の情報(無し、軽度、半壊、全壊)</li> </ul> </li> <li>■詳細情報 <ul style="list-style-type: none"> <li>・他病院からの婦人科患者受け入れ</li> <li>・良性腫瘍・悪性腫瘍手術の受け入れ可否</li> <li>・ライフライン(水道・ガス・電気)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「徳島県医師会救急災害対策マニュアル」(平成29年4月)に則って行動する</li> <li>震度4未満 <ul style="list-style-type: none"> <li>平日日中 日常診療通り</li> <li>夜間・休日 負傷者の規模に応じて対応</li> </ul> </li> <li>震度5弱 <ul style="list-style-type: none"> <li>平日日中 建物に損害がなければ日常診療可能な限り都市医師会長と連絡</li> </ul> </li> <li>震度5強以上:アクションカードの使用 <ul style="list-style-type: none"> <li>平日日中 平日診療を速やかに終了し、決められた応急救護所・救急災害拠点病院などに参集できるよう待機する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所が機能すれば自院で待機する</li> <li>・可能であれば近隣分娩施設への応援、または応急救護所・救急災害拠点病院などに参集できるよう待機する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフラインが復旧していれば通常診療に戻る</li> </ul>

○徳島県周産期災害対策マニュアル(フェーズごとの行動指針)・骨格

フェーズ	フェーズ0	フェーズI	フェーズII	フェーズIII	フェーズIV
	平時からの対応 発災前	発災期対応 発災直後	超急性期対応 発災～48時間	急性期対応 48時間～1週間	亜急性期以降対応 1週間～1か月程度
助産師	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体制・システム <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師会・施設内・リエゾンとの連絡網の整備</li> <li>・防災訓練・教育の実施</li> <li>・医療機器に頼らない分娩技術の習得</li> <li>・災害時ボランティア登録・育成</li> <li>・災害対策マニュアルの作成、点検、整備</li> </ul> </li> <li>○妊産婦への啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健診、母親学級・パパママ学級、産後入院中、家庭訪問で防災教育を行う</li> </ul> </li> <li>【妊婦健診】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通診療ノートの活用方法について説明し、防災ノートのページを紹介して、妊産婦と乳幼児が災害時における“要配慮者”であることを伝える</li> <li>・母子健康手帳・共通診療ノートを常時携帯するように説明し、必要事項の記載、検査結果の貼付を促す</li> <li>・居住地域の災害に関する情報を把握しておくよう勧める</li> <li>・災害に備えて避難場所や経路、緊急時の連絡方法について家族と話し合っておくことの重要性を伝える</li> <li>・予約外受診の方法、災害発生時の医療情報の収集方法について説明する</li> </ul> </li> <li>【母親学級、パパママ学級】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講時に共通診療ノートを持参するよう呼びかけ、防災ノートの内容をプログラムに含める</li> <li>・出産に必要な物品を準備する際に非常用物品も備えるよう勧める</li> <li>・母乳栄養の利点として、災害時に有用であることを伝える</li> <li>・災害発生時に妊産婦が注意すべき症状、避難生活での注意事項、避難先で妊娠中であることを申し出ることの必要性について説明する</li> </ul> </li> <li>【入院中】(診療所(分娩無)は除く) <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院施設での緊急避難方法について伝える</li> <li>・災害発生時に子どもの安全を守る方法、家庭での防災対策の重要性について説明する</li> </ul> </li> <li>【家庭訪問】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの事故防止としての家庭内の環境整備が防災対策にもなることを説明する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身、家族、スタッフの安全確保及び安否確認</li> <li>・被災状況の把握(建物の倒壊、火災、津波などによる災害に備える)</li> </ul> </li> <li>○助産師会の災害対策本部の立ち上げ <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急連絡網で会員の安否確認</li> </ul> </li> <li>○情報共有 <ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期災害対策ネットワーク本部との情報交換</li> </ul> </li> <li>○物品 <ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄物品の確認</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要に応じて災害対策本部を周産期災害対策ネットワーク本部との併設を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康相談 <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の妊産婦に対する健康相談</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巡回支援・家庭訪問 <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の巡回支援</li> <li>・家庭訪問(妊産婦・新生児)</li> </ul> </li> </ul>
開業助産師	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設・物品 <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易分娩セット、産褥セット(パット等)の準備、点検、整備</li> <li>・災害対策用品の点検、整備</li> <li>・非常食・飲料水・粉ミルク・紙オムツの備蓄(1名×1日分程度)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「日本助産師会災害時支援マニュアル」(第二版)に則って行動する <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生直後の行動の優先順位 <ol style="list-style-type: none"> <li>①救命と保護</li> <li>②安全確保</li> <li>③マンパワーの確保</li> <li>④状況把握と情報の確保</li> </ol> </li> </ul> </li> <li>○「徳島県助産師会災害対策マニュアル」(平成27年3月発行)に則って行動する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害ボランティアの出動準備、参集できるよう待機する</li> </ul>		



○徳島県周産期災害対策マニュアル(フェーズごとの行動指針)・骨格

フェーズ	フェーズ0	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4
	平時からの対応 発災前	発災期対応 発災直後	超急性期対応 発災～48時間	急性期対応 48時間～1週間	亜急性期以降対応 1週間～1か月程度
市町村保健師	<p>○妊産婦への啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳配布時、母親学級・パパママ学級、家庭訪問、乳幼児健診で防災教育を行う</li> </ul> <p>【母子健康手帳交付時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦の情報収集</li> <li>・共通診療ノートの活用方法について説明し、防災ノートのページを紹介して、妊産婦と乳幼児が災害時における“要配慮者”であることを伝える</li> <li>・母子健康手帳・共通診療ノートを常時携帯するように説明し、必要事項の記載、検査結果の貼付を促す</li> <li>・地域のハザードマップを一緒に配布し、地域の災害に関する情報を提供する</li> <li>・災害に備えて避難場所や経路、緊急時の連絡方法について家族と話し合っておくことの重要性を伝える</li> <li>・災害発生時の医療情報の収集方法について説明する</li> </ul> <p>【母親学級、パパママ学級】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講時に共通診療ノートを持参するよう呼びかけ、防災ノートの内容をプログラムに含める</li> <li>・出産に必要な物品を準備する際に非常用物品も備えるよう勧める</li> <li>・母乳栄養の利点として、災害時に有用であることを伝える</li> <li>・災害発生時に妊産婦が注意すべき症状、避難生活での注意事項、避難先で妊娠中であることを申し出ることの必要性について説明する</li> </ul> <p>【家庭訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの事故防止としての家庭内の環境整備が防災対策にもなることを説明する</li> </ul> <p>【乳幼児健診】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長に合わせた非常用物品の備えについて説明する</li> </ul>	<p>○保健衛生コーディネーターとの連絡体制の確立</p> <p>○要医療者の把握・支援</p>	<p>○妊産婦・母子の安否確認・状況把握</p> <p>○妊産婦・母子の情報の関係者 (避難所運営者、地域の民生委員等)との共有</p> <p>○情報収集と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所・支援物資の状況</li> <li>・診療可能な産科医療機関(移動手段)</li> <li>・受診が必要な症状</li> <li>・感染予防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所・支援物資の状況</li> <li>・診療可能な産科医療機関(移動手段)</li> <li>・受診が必要な症状</li> <li>・感染予防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所・支援物資の状況</li> <li>・健診が受診できる医療機関(移動手段)</li> <li>・メンタルヘルスを含めた受診が必要な症状</li> <li>・感染予防</li> </ul>
県保健師	<p>○妊産婦・母子への支援を踏まえた災害対応訓練の実施</p> <p>○市町村保健師や助産師などの専門職を対象とした妊産婦・母子への災害対応に関する研修会の開催</p> <p>○地域住民を対象とした妊産婦・母子への災害対応の啓発に関する支援</p>	<p>○保健衛生コーディネーターを中心とした情報収集及び被災市町村の支援</p>			
妊産婦	<p>○災害への備え</p> <p>【妊娠中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通診療ノートの活用方法を理解し、妊産婦と乳幼児が災害時における“要配慮者”である自覚を持つ</li> <li>・母子健康手帳・共通診療ノートを常時携帯し、必要事項を記載し、検査結果を貼付する</li> <li>・地域のハザードマップを確認し、地域の災害に関する情報を収集する</li> <li>・災害に備えて避難場所や経路、緊急時の連絡方法について家族と話し合っておく</li> <li>・予約外受診の方法、災害発生時の医療情報の収集方法について理解する</li> <li>・出産に必要な物品を準備する際に、防災ノートを参考にして非常用物品も備える</li> <li>・母乳栄養の利点として、災害時に有用であることを理解する</li> <li>・災害発生時に妊産婦が注意すべき症状、避難生活での注意事項、避難先で妊娠中であることを申し出ることの必要性について理解する</li> </ul> <p>【入院中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院施設での緊急避難方法について理解する</li> <li>・災害発生時に子どもの安全を守る方法、家庭での防災対策の重要性について理解する</li> </ul> <p>【出産後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの事故防止が防災対策にもなることを理解し、家庭内の環境を整える</li> <li>・子どもの成長に合わせた非常用物品を備える</li> </ul>	<p>○安全確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身、家族の安全確保</li> <li>・被災状況の把握(自宅の倒壊、火災、津波などによる災害に備える)</li> <li>・避難する(必要時)</li> </ul> <p>○情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ、インターネット、広報等</li> </ul>	<p>○避難時の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦、子ども連れであること</li> <li>・分娩兆候があるとき</li> <li>・育児用品の確保</li> </ul> <p>○情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医への連絡(緊急時)</li> <li>・分娩取扱い施設の確認(HP、すだちくんメール、避難所など)</li> <li>・防災ノートの「災害発生後妊産婦さんにとって欲しいこと」を確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医への連絡(健診等)</li> </ul> <p>○避難生活への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口への相談(必要時)</li> </ul>	

# 災害時の周産期医療体制

★様々な情報ツール活用: 大規模災害対策情報システム、  
災害時情報共有システム、EMIS等

## 【徳島県災害対策本部(県庁)】

### ◆他の様々な部局の災害対策本部班

保健福祉部

#### 医療活動支援班

- ・総括災害医療Co.
- ・県DMAT調整本部 (統括DMAT)
- ・県DPAT調整本部 (統括DPAT)
- ・災害時小児周産期リエゾン(災害医療Co.)
- 避難者支援班、薬務班 ほか

4分野の総括Co.  
(医療、保健衛生、  
薬務、介護福祉)

## 【徳島大学病院】

### 大学病院災害対策本部

◇総合周産期母子医療センター

・徳島県周産期災害対策ネットワーク本部

情報共有

## 【DMAT SCU本部】

## 【災害拠点病院】

- ・現地医療対策支部機能 (圏域調整会議等)  
保健福祉部 災害時Co.(圏域Co.)
- ・DMAT活動拠点本部(統括DMAT)  
または病院支援指揮所(統括DMAT)  
DMAT
- ・様々なチーム  
医療救護班、DPAT、災害支援ナース  
保健師チーム(市町村の母子保健含め)、  
リハビリチーム、栄養チーム、介護チーム、  
感染症対策支援チーム、口腔ケアチーム ほか

## 各病院災害対策本部

(分娩取扱い)

◇地域周産期母子医療センター

< 県立中央病院 > < 徳島市民病院 >  
< 徳島赤十字病院 >

< 鳴門病院 > < 吉野川医療センター >  
< 県立海部病院 > < 半田病院 >  
< 阿南医療センター >

< 県立三好病院 > < 海南病院 >

## 【診療所(地域の産科医療機関)】

## 【医療機関・医療救護所】

## 【助産師会】

【避難所】 避難所運営リーダー、運営組織ほか  
【福祉避難所】 市町村から指定、協定のもと  
【一般住宅】【仮設住宅】

## 1. フェーズごとの行動指針

### (1) 災害時小児周産期リエゾン(災害医療コーディネーター(専門分野：小児周産期医療)) ※アクションカード別添参照

#### ● 「災害時小児周産期リエゾン」とは

大規模災害発生時、県庁内の災害対策本部内で、搬送や治療が必要な妊産婦・乳児の情報を集め、被災地内外の医療機関等につなげる調整役。本県では、災害医療コーディネーター(専門分野：小児周産期)として任命している。

平成28年度から厚生労働省による養成研修が始まっている。

#### 【フェーズ0：発災前】

～ 平時からの対応 ～

- 四国四県の産科基幹病院の産婦人科医の連絡体制の確立
- 四国四県の新生児科医の連絡体制の確立
- 新生児医療連絡会の全国災害連絡網の確認
- 県災害対策本部との連携強化
- 災害対策講習会への参加
- 通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
- 大規模災害対策情報システム入力訓練の統括

#### 【フェーズⅠ：発災直後】

～ 発災期対応 ～

- 県庁に災害対策部会が設置され、小児周産期リエゾン参集の要請があった場合 ⇒ 県庁に参集できる小児周産期リエゾンの決定（原則として産婦人科医師1名、小児科医師1名とする）
- 県庁へ移動してDMATと対面、現状確認
- 通信手段の確認（LINE、衛星電話等）
- 県内基幹施設・診療所との連絡体制の確保
- 四国新生児医療研究会世話人間の連絡体制の確保
- 新生児医療連絡会の全国災害連絡網との連絡体制の確保
- 基幹施設・産科診療所の被災状況の確認
- 他府県を含めて移送が必要な患者の把握
- 指揮系統・担当者の明確化

#### 【フェーズⅡ：発災～48時間】

～ 超急性期対応 ～

- DMAT・救急隊との連携による患者移送の調整
- DMATによるドクターヘリ・救急車配備の調整
- 県内基幹施設の医療スタッフの充足状況の確認
- 基幹施設・産科診療所・避難所の必要物資の確認
- 支援物資運搬の助言

#### 【フェーズⅢ：48時間～1週間】

～ 急性期対応 ～

- DMAT・県災害対策本部との調整
- 基幹施設・産科診療所・避難所の状況確認
- 他府県からの応援医師の配置についての助言

#### 【フェーズⅣ：1週間～1か月程度】

～ 亜急性期以降対応 ～

- DMAT撤退後の災害対策本部との調整の継続



## (2) 徳島県周産期災害対策ネットワーク本部（徳島大学病院）

※アクションカード別添参照

- 「徳島県周産期災害対策ネットワーク本部」とは  
大規模災害時、県内唯一の総合周産期母子医療センターである徳島大学病院内のDMAT本部と近い場所に設置する。  
県災害対策本部内の災害時小児周産期リエゾンと連携し、県内の周産期医療施設の状況等について情報を集約するとともに、関係医療機関、行政、妊産婦等に対して情報発信を行う。

### 【フェーズⅠ：発災前】

～ 平時からの対応 ～

- 周産期災害対策ネットワーク本部を大学病院内に置き、妊婦・褥婦・新生児の情報を一括して扱うことの周知徹底
- 県内基幹施設の緊急時連絡網の構築
- 県内基幹施設間の緊急連絡のシミュレーションの実施
- 発災時の周産期災害対策ネットワーク本部立ち上げの学内シミュレーションの実施
- ネットワーク本部立ち上げに必要な物品の確保（パソコン、ホワイトボード、ライティングシート、マーカー等）
- 通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
- 大規模災害対策情報システム入力訓練への参加
- 周産期災害時情報共有ホームページを活用した妊産婦等へ災害時の備え等についての情報発信

### 【フェーズⅡ：発災直後】

～ 発災期対応 ～

- 大学病院の被害状況確認
- 大学病院周産母子センターの診療に必要な人員の確保
- 周産期災害対策ネットワーク本部の立ち上げ
  - ・ ネットワーク本部運営に必要な人員の確保
  - ・ ネットワーク本部立ち上げに必要な物品の確認
  - ・ 徳島大学病院内DMAT本部と近い場所に設置
- 小児周産期リエゾンとの情報共有
- 通信手段の確認（LINE、衛星電話等）
- 時系列の情報収集と記録

### 【フェーズⅢ：発災～48時間】

～ 超急性期対応 ～

- 小児周産期リエゾンとの情報共有の徹底
- 県内災害拠点病院・産科診療所の被災状況の把握
- 大規模災害対策情報システムの活用
- EMIS、県災害時情報共有システムの活用
- 必要物資の把握およびリスト化、支援要請
- 支援物資の配布先の選定
- 妊婦への情報発信
  - ・ 受診が必要な症状について
  - ・ 分娩取り扱い、外来診療の可否について

【フェーズⅢ：48時間～1週間】

- ～ 急性期対応 ～
- 妊産婦への各診療所の被災状況の情報発信
- 診療所の被災状況に応じた妊産婦の振り分けの手配
- 他府県からの応援受け入れ対応
- 状況に応じてネットワーク本部を産婦人科医局へ移動
- 支援物資の配布先の選定
- 妊婦への情報発信
  - ・受診が必要な症状について
  - ・分娩取り扱い、外来診療の可否について

【フェーズⅣ：1週間～1か月程度】

- ～ 亜急性期以降対応 ～
- 支援物資の配布先の選定
- 妊婦への情報発信
  - ・受診が必要な症状について
  - ・分娩取り扱い、外来診療の可否について

●「大規模災害対策情報システム」とは

日本産科婦人科学会が構築した大規模広域災害時の周産期医療情報を共有するためのインターネット上のシステム。(平成29年度から運用開始)災害時、被災地及びその周辺地域の産科診療の状況を入力することで、小児周産期リエゾン等による妊産婦の搬送や医師を含む医療資源の調整に活用される。

※システムの入口は日本産科婦人科学会のホームページ上のバナーに有り

現在は、学会員及び災害時小児周産期リエゾンのみ利用可能

○併せて「徳島県災害時情報共有システム」も活用

県内の医療機関の被災状況のほか、避難所の開設状況や道路の交通規制情報等も閲覧できる。

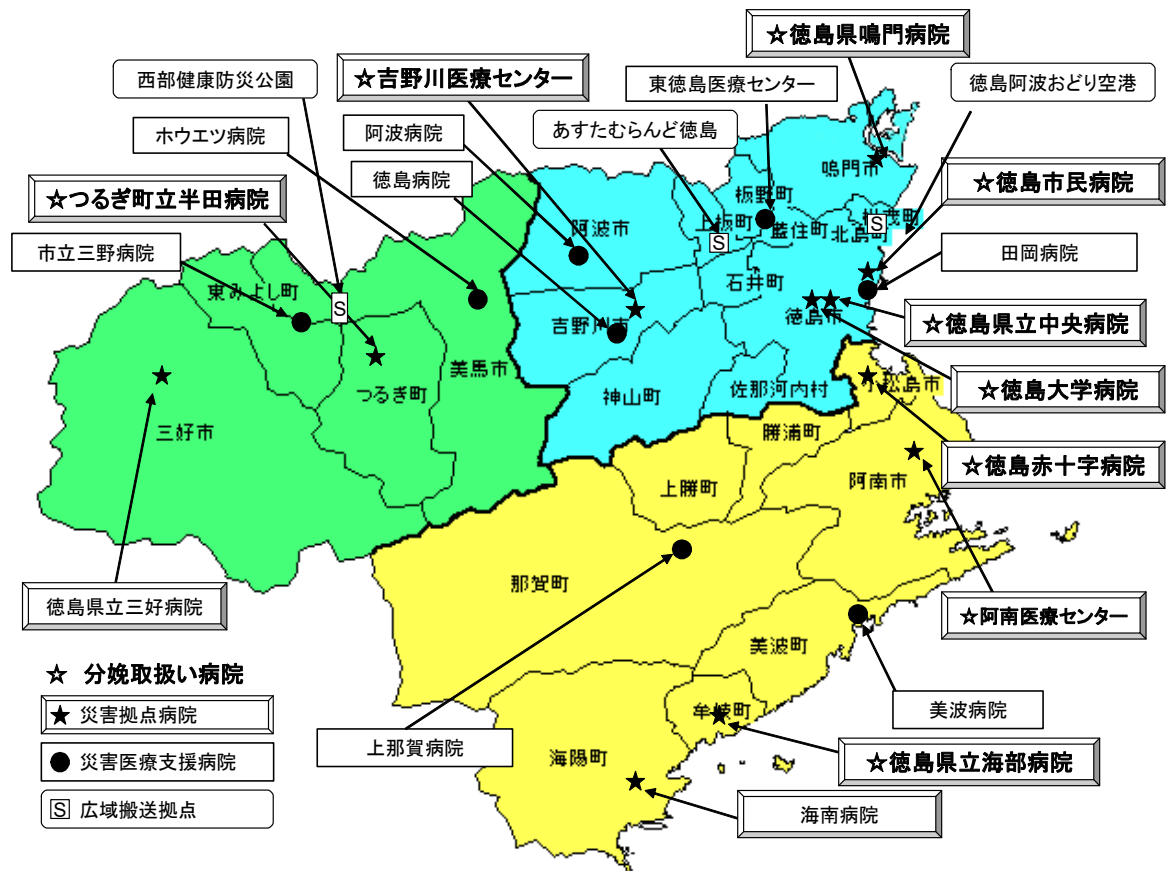
### (3) 産科を有する災害拠点病院

● 「災害拠点病院・災害医療支援病院」とは

災害拠点病院：大規模災害発生時、重篤な救急患者に対する救命医療を行う。高度の診療機能を有し、重症病者の受入機能、広域搬送への対応機能等を持つ。  
 災害医療支援病院：全ての患者が災害拠点病院に集中するのを防ぐため、被災地内のトリアージ拠点として被災者の受け入れを行い、重篤な救急患者は災害拠点病院へ転送する。また、圏域内の災害拠点病院被災時のバックアップ機能も持つ。

☆ 令和3年3月現在、分娩を取り扱っている病院は全て災害拠点病院に指定されている。（注：県立三好病院は分娩取扱い休止中）

県内の災害拠点病院・災害医療支援病院の状況（令和3年3月現在）



#### 【フェーズ0：発災前】

～ 平時からの対応 ～

#### ○ 体制・システム

- ・施設内・施設間・リエゾンとの連絡網作成
- ・防災訓練の実施
- ・情報共有・新生児・母体搬送などのマニュアル作成
- ・周産期のトリアージの訓練
- ・病棟のアクションカード整備
- ・分娩予定妊婦の連絡先名簿作成
- ・通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
- ・大規模災害対策情報システム入力訓練への参加

- 施設・物品(診療所(分娩無)は除く)
    - ・妊婦健診結果の共通診療ノートへの記載
    - ・分娩セット・帝王切開セットの予備の確保(10セット以上)
    - ・分娩時に使用できる水の確保
    - ・備蓄(3日分): 非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)
    - ・紙オムツ
    - ・医薬品の整理
  - 妊産婦への啓発
    - ・妊婦健診、母親学級・パパママ学級、産後入院中に防災教育を行う
- ※詳細は「助産師フェーズO」を参照

**【参考】**

日本産婦人科学会「大規模災害対策情報システム」への災害時情報入力項目

※情報入力・閲覧には、ID、パスワードが必要

■緊急情報(災害発生後48時間以内に入力)

- ・分娩取り扱いの可否
- ・帝王切開施行の可否
- ・外来診療の可否
- ・母体搬送・新生児搬送の受け入れの可否
- ・施設の情報(無し、軽度、半壊、全壊)

■詳細情報

- ・他病院からの婦人科患者受け入れ
- ・良性腫瘍・悪性腫瘍手術の受け入れ可否
- ・ライフライン(水道・ガス・電気)
- ・ヘリポート(ヘリポートの有無、活用可否、代替他の有無)

**【フェーズI：発災直後】**

～ 発災期対応 ～

- 安全確認
  - ・自分自身、家族、職員の安全確保
  - ・入院している妊婦、褥婦、新生児の安全確保と避難誘導・搬送(必要であれば)
  - ・被災状況の把握(建物の倒壊、火災、津波などによる災害に備える)
- 情報共有
  - ・通信手段の確認(LINE、衛星電話等)
  - ・施設内の災害対策本部、近隣の施設間、災害対策ネットワーク本部との情報交換
- 物品
  - ・使用できる分娩セット・帝王切開セットの確認
  - ・分娩時に使用できる水・ライフラインの確認
  - ・非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)・紙オムツの確認
  - ・医薬品の確認

**【フェーズII：発災～48時間】**

～ 超急性期対応 ～

- 妊婦、褥婦、新生児への対応
  - ・避難誘導・搬送(必要であれば)
  - ・外来診療
- 情報共有
  - ・大規模災害対策情報システムへの入力
  - ・EMIS、県災害時情報共有システムの活用
  - ・妊婦への情報発信
  - ・DMATが到着すれば周産期関連の情報伝達
- 物品
  - ・非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)・紙オムツなど必要物資の要求

- 必要な医薬品の要求
- 受け入れ体制の整備・受け入れ
  - ・妊産褥婦のトリアージブース設置

#### 【フェーズⅢ：48時間～1週間】

～ 急性期対応 ～

- 妊婦、褥婦、新生児への対応
  - ・搬送（必要であれば）
  - ・外来診療
- 情報共有
  - ・EMIS、県災害時情報共有システムの活用
  - ・妊婦への情報発信
- 物品
  - ・非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)・紙オムツなど必要物資の要求
  - ・必要な医薬品の要求
- 受け入れ体制の整備・受け入れ
  - ・早期退院患者の相談対応
  - ・被災により帰宅できない妊産婦への退院調整
  - ・妊婦健診・1か月健診等の受診予約の把握・情報提供

#### 【フェーズⅣ：1週間～1か月程度】

～ 亜急性期以降対応 ～

- 妊婦、褥婦、新生児への対応
  - ・搬送（必要であれば）
  - ・妊婦健診・1か月健診・分娩予約の再開
- 情報共有
  - ・EMIS、県災害時情報共有システムの活用
  - ・妊婦への情報発信
- 物品
  - ・非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)・紙オムツなど必要物資の要求
  - ・必要な医薬品の要求
- 受け入れ体制の整備・受け入れ
  - ・早期退院患者の相談対応
  - ・被災により帰宅できない妊産婦への退院調整
  - ・妊婦健診・1か月健診等の受診予約の把握・情報提供
- 巡回支援
  - ・妊婦・褥婦・新生児の巡回医療

#### (4) 産科診療所（分娩取扱有り）

徳島県内 分娩取扱診療所（令和3年3月現在）	
徳島市	梶産婦人科、蕙愛レディースクリニック、 祖川産婦人科クリニック、メイプルクリニック高橋産婦人科
石井町	遠藤産婦人科、なかに産婦人科
藍住町	中山産婦人科

#### 【フェーズ0：発災前】

～ 平時からの対応 ～

##### ○ 体制・システム

- ・施設内・施設間・リエゾンとの連絡網作成
- ・防災訓練の実施
- ・情報共有・新生児・母体搬送などのマニュアル作成
- ・周産期のトリアージの訓練
- ・病棟のアクションカード整備
- ・分娩予定妊婦の連絡先名簿作成
- ・通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
- ・大規模災害対策情報システム入力訓練への参加
- ・妊婦健診結果の共通診療ノートへの記載

##### ○ 施設・物品（診療所（分娩無）は除く）

- ・分娩セット・帝王切開セットの予備の確保（10セット以上）
- ・分娩時に使用できる水の確保
- ・備蓄（3日分）：非常食・飲料水・粉ミルク（アレルギー用を含む）
- ・紙オムツ
- ・医薬品の整理

##### ○ 妊産婦への啓発

- ・妊婦健診、母親学級・パパママ学級、産後入院中に防災教育を行う
- ※詳細は「助産師フェーズ0」を参照

#### 【参考】

日本産婦人科学会「大規模災害対策情報システム」への災害時情報入力項目

※情報入力・閲覧には、ID、パスワードが必要

##### ■緊急情報（災害発生後48時間以内に入力）

- ・分娩取り扱いの可否
- ・帝王切開施行の可否
- ・外来診療の可否
- ・母体搬送・新生児搬送の受け入れの可否
- ・施設の情報（無し、軽度、半壊、全壊）

##### ■詳細情報

- ・他病院からの婦人科患者受け入れ  
  - ・良性腫瘍・悪性腫瘍手術の受け入れ可否
- ・ライフライン（水道・ガス・電気）
- ・ヘリポート（ヘリポートの有無、活用可否、代替他の有無）

#### 【フェーズI：発災直後】

～ 発災期対応 ～

##### ○ 安全確認

- ・自分自身、家族、職員の安全確保
- ・入院している妊婦、褥婦、新生児の安全確保と避難誘導・搬送（必要であれば）
- ・被災状況の把握（建物の倒壊、火災、津波などによる災害に備える）



- 情報共有
  - ・通信手段の確認（LINE、衛星電話等）
  - ・施設内の災害対策本部、近隣の施設間、災害対策ネットワーク本部との情報交換
- 物品
  - ・使用できる分娩セット・帝王切開セットの確認
  - ・分娩時に使用できる水・ライフラインの確認
  - ・非常食・飲料水・粉ミルク（アレルギー用を含む）・紙オムツの確認
  - ・医薬品の確認

【フェーズⅡ：発災～48時間】以降

～ 超急性期対応 以降 ～

- ◇ 診療所が機能すれば、できる範囲内で正常分娩・管理を行う
- ◇ 診療所が機能しなければ、入院患者の搬送、妊婦への情報提供を行う  
（可能であればオープンシステムも検討する）

(5) 産科診療所（分娩取扱無し・妊婦健診実施）

【フェーズⅠ：発災前】

～ 平時からの対応 ～

- 体制・システム
    - ・施設内・施設間・リエゾンとの連絡網作成
    - ・防災訓練の実施
    - ・情報共有・新生児・母体搬送などのマニュアル作成
    - ・周産期のトリアージの訓練
    - ・病棟のアクションカード整備
    - ・分娩予定妊婦の連絡先名簿作成
    - ・通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
    - ・大規模災害対策情報システム入力訓練への参加
    - ・妊婦健診結果の共通診療ノートへの記載
  - 施設・物品（診療所（分娩無）は除く）
    - ・分娩セット・帝王切開セットの予備の確保（10セット以上）
    - ・分娩時に使用できる水の確保
    - ・備蓄（3日分）：非常食・飲料水・粉ミルク（アレルギー用を含む）
    - ・紙オムツ
    - ・医薬品の整理
  - 妊産婦への啓発
    - ・妊婦健診、母親学級・パパママ学級、産後入院中に防災教育を行う
- ※詳細は「助産師フェーズⅠ」を参照

【参考】

日本産婦人科学会「大規模災害対策情報システム」への災害時情報入力項目

※情報入力・閲覧には、ID、パスワードが必要

■緊急情報（災害発生後48時間以内に入力）

- ・分娩取り扱いの可否
- ・帝王切開施行の可否
- ・外来診療の可否
- ・母体搬送・新生児搬送の受け入れの可否
- ・施設の情報（無し、軽度、半壊、全壊）

■詳細情報

- ・他病院からの婦人科患者受け入れ  
良性腫瘍・悪性腫瘍手術の受け入れ可否
- ・ライフライン（水道・ガス・電気）
- ・ヘリポート（ヘリポートの有無、活用可否、代替他の有無）

【フェーズⅠ：発災直後】

～ 発災期対応 ～

- 「徳島県医師会救急災害対策マニュアル」（平成29年4月）に則って行動する

震度4未満

平日日中 日常診療通り

夜間・休日 負傷者の規模に応じて対応

震度5弱

平日日中 建物に損害がなければ日常診療

可能な限り郡市医師会長と連絡

震度5強以上：アクションカードの使用

平日日中 平日診療を速やかに終了し、決められた応急

救護所・救急災害拠点病院などに参集できる

よう待機する

【フェーズⅡ：発災～48時間・フェーズⅢ：48時間～1週間】

～ 超急性期対応・急性期対応 ～

- ◇ 診療所が機能すれば自院で待機する

- ◇ 可能であれば近隣分娩施設への応援、または応急救護所・救急災害拠点病院などに参集できるよう待機する

【フェーズⅣ：1週間～1か月程度】

～ 亜急性期以降対応 ～

- ◇ ライフラインが復旧していれば通常診療に戻る

## (6) 助産師

### ① 全般

#### 【フェーズ0：発災前】

～ 平時からの対応 ～

##### ○ 体制・システム

- ・助産師会・施設内・リエゾンとの連絡網の整備
- ・防災訓練・教育の実施
- ・医療機器に頼らない分娩技術の習得
- ・災害時ボランティア登録・育成
- ・災害対策マニュアルの作成、点検、整備

##### ○ 妊産婦への啓発

- ・妊婦健診、母親学級・パパママ学級、産後入院中、家庭訪問で防災教育を行う

#### 【妊婦健診】

- ・共通診療ノートの活用方法について説明し、防災ノートのページを紹介して、妊産婦と乳幼児が災害時における“要配慮者”であることを伝える
- ・母子健康手帳・共通診療ノートを常時携帯するように説明し、必要事項の記載、検査結果の貼付を促す
- ・居住地の災害に関する情報を把握しておくよう勧める
- ・災害に備えて避難場所や経路、緊急時の連絡方法について家族と話し合っておくことの重要性を伝える
- ・予約外受診の方法、災害発生時の医療情報の収集方法について説明する

#### 【母親学級、パパママ学級】

- ・受講時に共通診療ノートを持参するよう呼びかけ、防災ノートの内容をプログラムに含める
- ・出産に必要な物品を準備する際に非常用物品も備えるよう勧める
- ・母乳栄養の利点として、災害時に有用であることを伝える
- ・災害発生時に妊産婦が注意すべき症状、避難生活での注意事項、避難先で妊娠中であることを申し出ることの必要性について説明する

#### 【入院中】（診療所（分娩無）は除く）

- ・入院施設での緊急避難方法について伝える
- ・災害発生時に子どもの安全を守る方法、家庭での防災対策の重要性について説明する

#### 【家庭訪問】

- ・子どもの事故防止としての家庭内の環境整備が防災対策にもなることを説明する

#### 【フェーズI：発災直後】

～ 発災期対応 ～

##### ○ 安全確認

- ・自分自身、家族、スタッフの安全確保及び安否確認
- ・被災状況の把握（建物の倒壊、火災、津波などによる災害に備える）

##### ○ 助産師会の災害対策本部の立ち上げ

- ・緊急連絡網で会員の安否確認

##### ○ 情報共有

- ・周産期災害対策ネットワーク本部との情報交換

##### ○ 物品

- ・備蓄物品の確認

#### 【フェーズII：発災～48時間】

～ 超急性期対応 ～

##### ○ 必要に応じて災害対策本部を周産期災害対策ネットワーク本部との併設を検討

##### ○ 情報共有

- ・周産期災害対策ネットワーク本部との情報交換

- 物品
  - ・備蓄物品の確認
- 応援要請
  - ・必要時、日本看護協会、日本助産師会への応援要請
  - ・災害ボランティアの受け入れ

#### 【フェーズⅢ：48時間～1週間】以降

～ 急性期対応 以降 ～

- 情報共有
  - ・周産期災害対策ネットワーク本部との情報交換
- 物品
  - ・備蓄物品の確認
- 応援要請
  - ・必要時、日本看護協会、日本助産師会への応援要請
  - ・災害ボランティアの受け入れ
- 健康相談
  - ・避難所の妊産婦に対する健康相談

#### 【フェーズⅣ：1週間～1か月程度】

～ 亜急性期以降対応 ～

- 情報共有
  - ・周産期災害対策ネットワーク本部との情報交換
- 物品
  - ・備蓄物品の確認
- 応援要請
  - ・必要時、日本看護協会、日本助産師会への応援要請
  - ・災害ボランティアの受け入れ
- 健康相談
  - ・避難所の妊産婦に対する健康相談
- 巡回相談・家庭訪問
  - ・避難所の巡回支援
  - ・家庭訪問（妊産婦・新生児）

#### ② うち開業助産師

#### 【フェーズⅠ：発災前】

～ 平時からの対応 ～

- 施設・物品
  - ・簡易分娩セット、産褥セット（パット等）の準備、点検、整備
  - ・災害対策用品の点検、整備
  - ・非常食・飲料水・粉ミルク・紙オムツの備蓄  
（1名×1日分程度）

#### 【フェーズⅡ：発災直後】

～ 発災期対応 ～

- 「日本助産師会災害時支援マニュアル」（第二版）に則って行動する
  - ・災害発生直後の行動の優先順位
    - ①救命と保護 ②安全確保 ③マンパワーの確保
    - ④状況把握と情報の確保
- 「徳島県助産師会災害対策マニュアル」（平成27年3月発行）に則って行動する

【フェーズⅡ：発災～48時間】以降

～ 超急性期対応 以降 ～

- 災害ボランティアの出動準備、参集できるよう待機する

(7) 保健師

【フェーズⅠ：発災前】

～ 平時からの対応 ～

<市町村保健師>

- 妊産婦への啓発

- ・母子健康手帳配布時、母親学級・パパママ学級、家庭訪問、乳幼児健診で防災教育を行う

【母子健康手帳交付時】

- ・妊婦の情報収集
- ・共通診療ノートの活用方法について説明し、防災ノートのページを紹介して、妊産婦と乳幼児が災害時における“要配慮者”であることを伝える
- ・母子健康手帳・共通診療ノートを常時携帯するように説明し、必要事項の記載、検査結果の貼付を促す
- ・地域のハザードマップを一緒に配布し、地域の災害に関する情報を提供する
- ・災害に備えて避難場所や経路、緊急時の連絡方法について家族と話し合っておくことの重要性を伝える
- ・災害発生時の医療情報の収集方法について説明する

【母親学級、パパママ学級】

- ・受講時に共通診療ノートを持参するよう呼びかけ、防災ノートの内容をプログラムに含める
- ・出産に必要な物品を準備する際に非常用物品も備えるよう勧める
- ・母乳栄養の利点として、災害時に有用であることを伝える
- ・災害発生時に妊産婦が注意すべき症状、避難生活での注意事項、避難先で妊娠中であることを申し出ることの必要性について説明する

【家庭訪問】

- ・子どもの事故防止としての家庭内の環境整備が防災対策にもなることを説明する

【乳幼児健診】

- ・子どもの成長に合わせた非常用物品の備えについて説明する

<県保健師>

- 妊産婦・母子への支援を踏まえた災害対応訓練の実施
- 市町村保健師や助産師などの専門職を対象とした妊産婦・母子への災害対応に関する研修会の開催
- 地域住民を対象とした妊産婦・母子への災害対応の啓発に関する支援

【フェーズⅡ：発災直後】

～ 発災期対応 ～

<市町村保健師>

- 保健衛生コーディネーターとの連絡体制の確立
- 要医療者の把握・支援

<県保健師>

- 保健衛生コーディネーターを中心とした情報収集及び被災市町村の支援

【フェーズⅢ：発災～48時間】

～ 超急性期対応 ～

<市町村保健師>

- 妊産婦・母子の安否確認・状況把握

- 要医療者の把握・支援
- 妊産婦・母子の情報の関係者  
（避難所運営者、地域の民生委員等）との共有
- 情報収集と情報発信
  - ・避難所・支援物資の状況
  - ・診療可能な産科医療機関（移動手段）
  - ・受診が必要な症状
  - ・感染予防

<県保健師>

- 保健衛生コーディネーターを中心とした情報収集及び被災市町村の支援

【フェーズⅢ：48時間～1週間】

～ 急性期対応 ～

<市町村保健師>

- 妊産婦・母子の安否確認・状況把握
- 要医療者の把握・支援
- 妊産婦・母子の情報の関係者  
（避難所運営者、地域の民生委員等）との共有
- 情報収集と情報発信
  - ・避難所・支援物資の状況
  - ・診療可能な産科医療機関（移動手段）
  - ・受診が必要な症状
  - ・感染予防

<県保健師>

- 保健衛生コーディネーターを中心とした情報収集及び被災市町村の支援

【フェーズⅣ：1週間～1か月程度】

～ 亜急性期以降対応 ～

<市町村保健師>

- 妊産婦・母子の安否確認・状況把握
- 要医療者の把握・支援
- 妊産婦・母子の情報の関係者  
（避難所運営者、地域の民生委員等）との共有
- 情報収集と情報発信
  - ・避難所・支援物資の状況
  - ・健診が受診できる医療機関（移動手段）
  - ・メンタルヘルスを含めた受診が必要な症状
  - ・感染予防

<県保健師>

- 保健衛生コーディネーターを中心とした情報収集及び被災市町村の支援

**(8) 妊産婦**

妊産婦に該当する方は次々と変わって来ため、全ての妊婦に継続して、「自助」としての防災に関する備えができるよう、関係機関・関係者が継続して情報発信・支援を行うことが大切である。

以下は、妊産婦がとるべき行動を示したものであり、平時からの啓発等の指針である。



## 【フェーズⅠ：発災前】

～ 平時からの対応 ～

### ○ 災害への備え

## 【妊娠中】

- ・ 共通診療ノートの活用方法を理解し、妊産婦と乳幼児が災害時における“要配慮者”である自覚を持つ
- ・ 母子健康手帳・共通診療ノートを常時携帯し、必要事項を記載し、検査結果を貼付する
- ・ 地域のハザードマップを確認し、地域の災害に関する情報を収集する
- ・ 災害に備えて避難場所や経路、緊急時の連絡方法について家族と話し合っておく
- ・ 予約外受診の方法、災害発生時の医療情報の収集方法について理解する
- ・ 出産に必要な物品を準備する際に、防災ノートを参考にして非常用物品も備える
- ・ 母乳栄養の利点として、災害時に有用であることを理解する
- ・ 災害発生時に妊産婦が注意すべき症状、避難生活での注意事項、避難先で妊娠中であることを申し出ることの必要性について理解する

## 【入院中】

- ・ 入院施設での緊急避難方法について理解する
- ・ 災害発生時に子どもの安全を守る方法、家庭での防災対策の重要性について理解する

## 【出産後】

- ・ 子どもの事故防止が防災対策にもなることを理解し、家庭内の環境を整える
- ・ 子どもの成長に合わせた非常用物品を備える

## 【フェーズⅡ：発災直後】

～ 発災期対応 ～

### ○ 安全確認

- ・ 自分自身、家族の安全確保
- ・ 被災状況の把握（自宅の倒壊、火災、津波などによる災害に備える）
- ・ 避難する（必要時）

### ○ 情報収集

- ・ ラジオ、インターネット、広報等

## 【フェーズⅢ：発災～48時間】

～ 超急性期対応 ～

### ○ 避難時の情報発信

- ・ 妊産婦、子ども連れであること
- ・ 分娩兆候があるとき
- ・ 育児用品の確保

### ○ 情報収集

- ・ かかりつけ医への連絡（緊急時）
- ・ 分娩取扱い施設の確認（HP、すだちくんメール、避難所など）
- ・ 防災ノートの「災害発生後妊産婦さんに知っておいて欲しいこと」を確認する

## 【フェーズⅣ：48時間～1週間】以降

～ 急性期対応 以降 ～

### ○ 避難時の情報発信

- ・ 妊産婦、子ども連れであること
- ・ 分娩兆候があるとき
- ・ 育児用品の確保

### ○ 情報収集

- ・ かかりつけ医への連絡（健診等）

### ○ 避難生活への対応

- ・ 相談窓口への相談（必要時）

## 2. 関係機関電話番号簿

### (1) 産科を有する災害拠点病院

機関名	通常回線	衛星携帯電話		備考
		機種	番号	
徳島大学病院	088-631-3111(代) 088-633-9331(産科)	ワイドスターⅡ	080-2991-1409 090-4669-7886	
徳島県立中央病院	088-631-7151	ワイドスターⅡ	080-2990-0178 080-2990-0179	
徳島市民病院	088-622-5121	BGAN Explorer500 ワイドスターⅡ	(870)7-7258-0109 080-2981-4005	
徳島赤十字病院	0885-32-2555	ワイドスターⅡ	080-2974-9450 080-2974-9451 080-1999-6557	
徳島県鳴門病院	088-683-0011	BGAN Explorer500	(870)7-7258-0422	
吉野川医療センター	0883-26-2222	BGAN Explorer500 イリジウム9555	(870)7-7225-6525 (870)7-7225-6526 8816-2341-0990 8816-2341-0991	
徳島県立海部病院	0884-72-1166	ワイドスターⅡ	080-8631-8196 080-2990-0183	
つるぎ町立半田病院	0883-64-3145	ワイドスターⅡ	080-8632-8280	
徳島県立三好病院	0883-72-1131	BGAN Explorer710 ワイドスターⅡ	(870)7-7228-4477 080-2990-0180 080-2990-0181	分娩取扱無し
阿南医療センター	0884-28-7777	ワイドスターⅡ	080-1999-5200 080-8634-1980 080-8634-1981	

### (2) 関係団体

機関名	通常回線	衛星携帯電話		備考
		機種	番号	
徳島県医師会	088-622-0264	ワイドスターⅡ	080-2850-2151 080-2850-2152 080-2850-2153	
徳島県看護協会	088-631-5544			
徳島県助産師会	090-8285-9843			船戸会長

(3) 県関係

機関名	通常回線	衛星携帯電話		備考
		機種	番号	
健康づくり課	088-621-2220	BGAN Explorer710	(870)7-7263-2146	
医療政策課	088-621-2732	BGAN Explorer710	(870)7-7228-6250	
		ワイドスターⅡ	090-2242-2761	
保健福祉政策課	088-621-2185	BGAN Explorer500	(870)7-7228-6763	
徳島保健所	088-652-5153	ワイドスターⅡ	090-5275-0965	
吉野川保健所	0883-36-9018	ワイドスターⅡ	080-2976-2158	
阿南保健所	0884-28-9867	ワイドスターⅡ	080-2852-5875	
美波保健所	0884-74-7341	ワイドスターⅡ	090-8693-6588	
美馬保健所	0883-52-1017	ワイドスターⅡ	090-5710-6148	
三好保健所	0883-72-1122	BGAN Explorer500	(870)7-7228-6882	

### 3. 妊産婦・乳児に配慮した避難所運営指針

#### 【問題点】

一般避難所では妊産婦・乳児が過ごしにくく、安全・安心が守られにくい。

- ・妊婦であることを申し出にくい
- ・授乳がしづらい
- ・乳児の泣き声で周囲に気兼ねする
- ・車中泊などが増える
- ・妊娠高血圧症候群や血栓症などの増加
- ・急変に対応しづらい

#### 1) 避難所運営組織のポイント

- ・女性と男性、多様な立場の代表が責任者・リーダーとなる
- ・相談窓口、支援物資の女性担当者（ニーズ把握、物資配布）

#### 2) 妊産婦・乳児の避難者情報把握

- ・避難者の受付の際に妊産婦・乳児の把握をする

#### 3) 避難所のレイアウト・スペースにおける配慮

- ・授乳・おむつ替えスペース、可能であれば乳児のいる家族向けスペース
- ・女性用の更衣室、女性専用の物干し場などの配慮
- ・トイレは、女性に安全な場所に設置する  
女性用：男性用＝3：1を目安 洋式トイレを配備

#### 4) 妊産婦・乳児に必要な備蓄物品

- ・生理用品、おむつ（新生児、S、Mサイズ）、おしりふき
- ・粉ミルク又は乳児用液体ミルク、哺乳瓶、消毒用品、ミルク用の水、カセットコンロなど

#### 5) 性犯罪被害の防止

- ・トイレ周辺の安全確保（照明の確保など）、防犯ブザーの配布、巡回警備

#### ○妊産婦・乳児救護所設置の提言

- ・一般避難所では妊産婦・乳児への十分な対応が困難である可能性がある。
- ・切迫早産傾向がある、分娩予定日が近いなど急変の可能性がある妊産婦や、出産後に病院施設から早期に退院を余儀なくされた母子など、入院が必要ではないが、個別の対応が求められる場合は医療機関への連携がしやすい「妊産婦・乳児救護所」への入所が望ましい。

#### 1) 対象者

妊婦、乳児及びその母親

#### 2) スタッフ体制

妊婦・乳児のケアについては、助産師、看護師、医師等

#### 3) 備蓄物品

粉ミルク（アレルギー対応含む）、乳児用液体ミルク、簡易分娩セットなど

#### 4) 検討事項

対象者以外の方（父親や兄弟などの家族）が施設内に入ることを認めるか、開設期間、開設場所など

#### ■県内の妊産婦・乳児救護所の指定状況（令和3年3月現在）

開設者	指定場所	備考
鳴門市	徳島県鳴門病院附属看護専門学校 （鳴門市撫養町斎田）	鳴門市と徳島県鳴門病院との協定に基づき、大規模災害時に開設

## 4. 徳島県周産期「共通診療ノート」より 「防災ノート：赤ちゃん和妈妈を守るために」

### 防災ノート～赤ちゃん和妈妈を守るために～

#### 災害時に命を守る

災害時に赤ちゃん和妈妈を守るためには、一人一人が自ら取り組む『自助』が重要です。そのために、災害に備え、家の安全対策をし、災害時の身の安全の守り方を知っておくことが大切です。また、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む『共助』が大切です。災害が起こったときのために、家族との連絡方法を活かしておくことや、日ごろから近所の人と交流をしておくことも大切です。

#### 支援を求めましょう

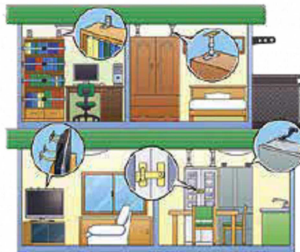
妊娠中や産後のママ、乳幼児は、災害時に特別な支援が必要な『要配慮者』となります。しかし、支援が必要な人の存在が分からなければ助けられません。避難所では「妊婦である」と責任(担当)者に申し出て支援を求めてください。マタニティマークも有効です。



#### 防災ノートの使い方

書き込みやチェックをして、災害への備えをしましょう。  
母子健康手帳と共通診療ノート(防災ノートを含む)を常に携帯しましょう。

家の中の安全対策：自宅を安全な場所にすることが大切です。



「政府広報オンライン」より

☆家の中の安全対策は  
子どもの事故防止にも  
つながります。

☆手の届くところに  
置きましょう  
・懐中電灯  
・スリッパ  
・ホイッスル

1

#### 赤ちゃん和妈妈のための非常用物品

避難所には、個々の乳幼児や妊産婦に合わせた備蓄品は整っていません。使い慣れたものを、すぐ持ち出せるようにしておきましょう。普段から非常用物品を持ち歩く、車に載せておくなどすると、外出時に被災しても役立ちます。

<b>一次避難用品：両手が空くようリュックに</b> <b>◆貴重品</b> <input type="checkbox"/> 現金(公衆電話のために小銭を含める) <input type="checkbox"/> 預金通帳 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <b>◆非常食・飲料水</b> <input type="checkbox"/> 食料品 <input type="checkbox"/> 飲料水 <b>◆医療品</b> <input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> お薬手帳 <input type="checkbox"/> 絆創膏 <b>◆生活用品</b> <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> 携帯トイレ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 乾電池 <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> ビニール袋(大・中・小) <input type="checkbox"/> ラップ <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> タオル <b>◆その他</b> <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> 充電器 <input type="checkbox"/> 身体を保温できるもの (おくるみ、カイロ、保温シートなど)	<b>◆妊産婦の方</b> <input type="checkbox"/> 母子健康手帳 <input type="checkbox"/> 共通診療ノート <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 清浄綿 <input type="checkbox"/> 分娩準備品 <input type="checkbox"/> 新生児用品  <b>◆乳幼児がいる方</b> <input type="checkbox"/> 粉ミルク <input type="checkbox"/> ミルク用飲料水 <input type="checkbox"/> 哺乳瓶 <input type="checkbox"/> 離乳食 <input type="checkbox"/> おやつ <input type="checkbox"/> スプーン <input type="checkbox"/> 抱っこ紐 <input type="checkbox"/> 大判スカーフ <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> おしりふき <input type="checkbox"/> おもちゃ <input type="checkbox"/> 子ども用の薬 <input type="checkbox"/> 乳幼児医療受給者証
<b>非常備蓄品</b> 水や食料は1人3日以上、できれば1週間分を備蓄しましょう。 衣類、下着、簡易トイレ、カセットコンロなど	



「政府広報オンライン」より

2

#### 災害時の家族との連絡方法・集合場所を決めておこう

- ✦ 災害用伝言ダイヤル(171)  
「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行います。
- ✦ 災害用伝言板  
大規模な災害時は、携帯会社のHPトップに「災害用伝言板サービス」が表示され、安否情報の登録や確認ができるようになります。
- ✦ すだちくんメール  
徳島県の災害時の安否確認サービスです。  
平常時に利用できる様々なサービスもあります。



すだちくんメールQRコード⇒

#### 災害発生時の対応

- ✦ 洪水や土砂崩れ  
自然災害に対しては、自らの判断で避難行動をとることが原則です。  
市町村から発令される避難情報も確認して、早めに避難をしましょう。

避難情報	とるべき行動
避難準備・高齢者等避難開始	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始。その他の人は、避難の準備。
避難勧告	速やかに避難場所へ避難。 ※外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内より安全な場所に避難。
避難指示(緊急)	まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難。 ※外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内より安全な場所に避難。

(注)必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

- ✦ 地震  
地震発生後：ガラスや家具から離れ、テーブルの下などで安全を確認しましょう。揺れがおさまったら、家族の安全を確認し、被害状況を確認しましょう。正しい情報を集め、避難が必要かどうか判断します。
- ✦ 避難時の注意  
避難するときは、火災を防ぐためガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを落とします。妊婦は転びやすいので注意しましょう。非常用物品を持って避難します。



3

#### 災害発生後 妊婦さんに知っておいて欲しいこと

- ✦ 妊婦が注意すべき症状
  - ・冷え：妊娠中は冷えるとお腹が張りやすくなります。できるだけ温かくしましょう。
  - ・深部静脈血栓症(エコノミークラス症候群)：長時間座った姿勢などでいると、血行不良になります。妊婦は血圧が低いため、ときどき身体を動かし、水分を十分とって予防しましょう。また、トイレは我慢しないようにしましょう。
  - ・妊娠高血圧症候群：災害時の食事は塩分が高いこともあり、塩分をとり過ぎると血圧が高くなる可能性があります。目がチカチカする、耳鳴り、頭痛、吐き気などの症状があれば、受診できるように手配してもらってください。
  - ・切迫流産：お腹が頻りに張る、下腹部痛、出血、破水などの症状は切迫流産の兆候です。受診できるように手配してもらってください。
- ✦ お産が始まった兆候  
出産が予定日より早くも早まる可能性があります。規則的な痛みを伴うお腹の張り、粘りのある出血、破水があるときは、直ちに助けを求め、お産が可能な病院等で診てもらいましょう。
- ✦ もし自宅や避難所など医療機関以外で産まれそうになったら
  - ・お産を手伝ってくれる人(医療関係者、出産経験のある女性など)を呼びます。
  - ・陣痛が始まったら、焦らずに横になれる場所を見つけて、慌てずにゆっくりと呼吸しましょう。落ち着くほど安全にお産を終えることができます。
  - ・赤ちゃんが生まれたら素早く顔を拭き、呼吸を確認しましょう。呼吸をしていない時は、赤ちゃんの足や背中をさすって刺激をしましょう。
  - ・乾いたタオルで赤ちゃんの身体を拭きます。赤ちゃんをお母さんの胸に抱いて保温しましょう。
  - ・胎盤が出てきたらビニール袋に入れておきます。へその緒の処置は、清潔にする必要があるのでもそのままにして、救急隊など医療関係者に依頼しましょう。
  - ・お母さんは出産後、ナプキン(紙おむつ)をあてて、2時間程度安静にしましょう。



4

### 産後のケア

産後は、不眠や食欲低下、疲れから気分が落ち込んだり、感情の起伏が激しくなったりすることがあります。災害時は、さらにこれらの症状が起こりやすくなります。

- ・我慢せずに、話せる人に気持ちを聞いてもらいましょう。
- ・家族にでも言えないことがあるかもしれませんが、かかりつけ医や助産師、保健師に相談をしましょう。
- ・からだを適度に動かすこと、眠ること、食べることが大事にしましょう。



### 乳幼児のケア

#### ✦ 母乳について

・精神的なショックで母乳量が少なくなることがありますが、飲ませ続けることで、また出るようになります。

・ミルクを補充する場合でも、まず最初に母乳を与えてください。

#### ✦ ミルクについて

- ・カセットコンロがあれば、ミルク用のお湯が準備できます。
- ・哺乳瓶がない場合や、消毒ができない時は、清潔な紙コップで与えましょう。赤ちゃんをタテ抱きにして、下唇にコップをあて、上唇がミルクに触れるようにします。ミルクを注ぎ込んではいけません。
- ・硬水は消化不良を起こしやすいので、軟水を用います。

#### ✦ 離乳食について

・ベビーフードがない場合、袋にご飯を入れ、お湯（水）と一緒にして潰してあげるとよいでしょう。濃い味付けのものは避けてください。

#### ✦ 子どもの反応とそのケア

- ・乳児では、発熱や下痢、哺乳力の低下、夜泣きなどが起こることがあります。抱っこするなどスキンシップをとりながら様子を見ます。
- ・幼児では、赤ちゃん返りや尿床、怒りやすい、泣きやすい、食欲の低下、汗波ごっこ、震災ごっこ等、心配な反応が現れることがあります。子どもを一人にせず、声掛けやスキンシップを保ちながら、遊びを取り入れ安心感、安全感を高めていきます。



### 緊急時の問い合わせ先：かかりつけ医に連絡が取れない時

#### ✦ 災害拠点病院のうち分娩を取扱う病院

地域	施設名	住所	電話
東部	徳島大学病院	徳島市蔵本町 2-50-1	088-631-3111
	徳島県立中央病院	徳島市蔵本町 1-10-3	088-631-7151
	徳島市民病院	徳島市北常三島町 2-34	088-622-5121
	徳島県清門病院	清門市撫養町黒崎字小谷 32	088-683-0011
	吉野川医療センター	吉野川市鳴島町知徳島字西知徳島120	0883-26-2222
南部	徳島赤十字病院	小松島市小松島町字井利ノ口103	0885-32-2555
	阿南医療センター	阿南市宝田町川原 6-1	0884-28-7777
	徳島県立海部病院	牟岐町大字中村字杉谷 266	0884-72-1166
西部	つるぎ町立半田病院	つるぎ町半田字中蔵 234-1	0883-64-3145



5

6

### あなたの地域の災害時の被害予測を知ろう

#### ✦ 南海トラフ巨大地震被害想定では

震度： 液状化： 有・無 津波浸水： m

#### ✦ 中央構造線活断層（直下型地震）

震度： 液状化： 有・無

### あなたの地域の避難所等を事前に確認しておきましょう

#### ✦ 避難場所：

#### ✦ 避難所：

#### ✦ 医療救護所（被災状況等により必要に応じて設置されます）：

### 相談の窓口

✦ 市町村の母子保健担当：（ ☎ ）

#### ✦ 徳島県助産師会担当：

① 「助産師による電話相談」

（土曜と日曜日 10時～16時 ☎ 090-8695-9470）

② 「子育てほっと相談室」産前・産後の母親相談事業（徳島県委託事業）  
（月曜から金曜日 13時～16時 ☎ 090-3186-8358）

### 正しい情報を集めましょう

#### ✦ 徳島県防災・危機管理情報サイト「安心とくしま」

HPアドレス <https://anshin.pref.tokushima.jp/>

#### ✦ 医療とくしま（徳島県の医療機関・情報のデータベース）

HPアドレス <https://anshin.pref.tokushima.jp/med/>

#### ✦ 徳島県助産師会 HP アドレス <http://tokushima-midwife.com/>

#### ✦ Facebook（フェイスブック）：とくしま子育て防災ネットワーク

@tokushimabousai

#### ✦ Twitter（ツイッター）：徳島県防災・危機管理情報 @saiga01

#### ✦ 徳島大学病院「妊婦さんと赤ちゃんのための災害に備えて」

HPアドレス  
<http://www.tokudai-sanfujinka.jp/disaster/>

ホームページ QRコード⇒



7



【参考資料】

- 救急災害対策マニュアル（徳島県医師会）
- 徳島県災害時医療活動マニュアル（徳島県保健福祉部医療政策課）
- 徳島県戦略的災害医療プロジェクト「基本戦略」（徳島県）
- 徳島県災害時保健衛生活動マニュアル（徳島県）
- 災害時妊産婦情報共有マニュアル＜保健・医療関係者向け＞（平成27年度厚生労働科学研究費補助金「東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究」班）
- 災害時に備えて知っておきたい母と子の豆知識（徳島県助産師会）
- 赤ちゃんとママを守る防災ノート（監修：春名めぐみ・吉田穂波）

作成：徳島県周産期医療協議会・災害対策部会

- 上田 美香（公益社団法人徳島県看護協会助産師職能委員長）
- 沖津 修（つるぎ町立半田病院病院事業管理者）
- 加地 剛（徳島大学病院産科婦人科准教授）
- 中川 竜二（徳島大学病院小児科周産母子部講師）
- 春名 充（徳島県産婦人科医会会長）
- 福井 理仁（徳島市民病院産婦人科総括部長）
- 船戸 豊子（一般社団法人徳島県助産師会会長）
- 別宮 史朗（徳島赤十字病院副院長兼第一産婦人科部長）
- 前川 正彦（県立中央病院副院長）＜災害対策部会長＞

※敬称略・五十音順

（オブザーバー）

- 苛原 稔（徳島大学大学院医歯薬学研究部部長）

徳島県保健福祉部医療政策課広域医療室

徳島県保健福祉部健康づくり課